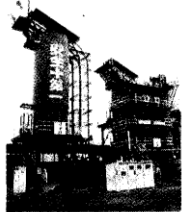


茨城新聞

発行所
茨城新聞社
〒310-8686
水戸市北見町2番15号
電話(029)221-3121(代)
©茨城新聞社2006
地域と共に115年

紙面から



23 焼却灰をリサイクル
筑西広域市町村圏事務組合が、環境センターのごみ処理施設(筑西市)から排出される焼却灰を道路のアスファルトや路盤材の原料に再利用。埋め立てに比べ年間約一億五千万円の経費削減になると試算している。

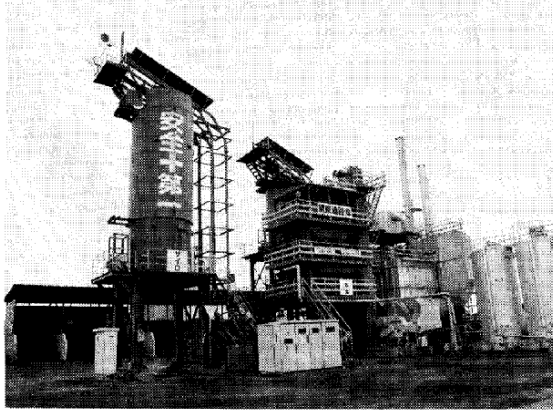
年間1億5000万円節減

ごみ焼却灰→アスファルト

筑西広域事務組合 地域道路に再利用

筑西、結城、桜川の三市で構成する筑西広域市町村圏事務組合(管理者・富山省三筑西市長)は、環境センターのごみ処理施設(筑西市下川島)から排出される焼却灰を道路のアスファルトや路盤材の原料として再利用している。同組合では、「年間約四十六百トの灰が利用可能で、焼却灰を埋め立てるのに比べて年間約一億五千万円もの経費削減になる」と試算し、環境保全や資源保護の面でも注目を集めている。

同組合の環境センターし、ガラス状の無害な溶融スラグをアスファルトに有効活用。焼却灰を埋め立てるのに比べて年間約一億五千万円もの経費削減になる」と試算し、環境保全や資源保護の面でも注目を集めている。



溶融スラグを使った関東道路のアスファルト製造プラント(筑西市下川島)

環境・資源保護でも注目

から約一年半かけ、溶融スラグをアスファルトの骨材として使う研究・試験を重ね、新合材アスファルトの実用化を実現した。昨年三月、この新合材アスファルトが県リサイクル建設資材の認定を受け、需要が一気に拡大。武藤社長は、「県のお墨付きを得たことで、公共工事に使うケースが多くなった。新合材アスファルトとアスファルト廃材で新しいアスファルトを再生し、地域の道路に使うことで官民一体となった地域完全巡回型リサイクルシステムが作り上げられる」と強調する。これまで焼却灰は他県に運ばれ埋め立てられていた。現在埋め立て処理している灰固化物も約三万三千円かかっていたが、溶融スラグは逆に一ト当たり百円で売

2006年5月20日(土)、1面と23面(第1社会面)に掲載